

2021年6月の行事予定表

1	火		16	水	
2	水		17	木	
3	木		18	金	
4	金		19	土	
5	土		20	日	礼拝式
6	日	礼拝式	21	月	
7	月		22	火	
8	火		23	水	
9	水		24	木	祈禱会
10	木		25	金	
11	金		26	土	
12	土		27	日	礼拝式
13	日	礼拝式	28	月	
14	月		29	火	
15	火		30	水	

6月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

この1年の月報を見返すと、今までのような特別集会や修養会やコンサートの
ような行事の記事がありません。教会にとってもどんな1年だったか物語るもの
です。にもかかわらず、毎月月報を発行できたのは、皆さんがアンケートやイン
タビュー答えてくださったり、証しを寄せて下さったり、協力をしていただいたおか
げです。本来は教会の様子を伝えることを目的としていましたが、Web 礼拝で
顔を合わせて会えない今、皆さんのつなぎとなることを祈って奉仕してきました。
離れていても、主にある家族であることをもう一度確認したいです。

教会月報

2021年6月

No.361

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

聖霊の働き

「ここであなたがたに言っておきたい。神の霊によって
語る人は、だれも『イエスは神から見捨てられよ』とは
言わないし、また、聖霊によらなければ、誰も『イエス
は主である』とは言えないのです。」

Iコリント12:3

聖書には神様(父なる神と、子なるイエス・キリストなる神と、聖霊
なる神が登場し、三つの神が一つであることを三位一体と言いま
す)が天地万物を創造され、人もおつくりになられたと記しています。

その神は、父と子と聖霊の神として三つあるように見えますが、神は
一つです。旧約聖書では父なる神様が人間の始祖アダムやエバ、そして
預言者たちに語りかけられます。新約聖書ではイエスが弟子たちに神が
なぜ人となられたかを解き明かされます。また、当時弱者とみられてい
た身体障害者や女性、子供たちに人格者として向き合い愛と福音を語ら
れました。

さて、聖霊なる神は目に見ることができません。しかし、聖霊の働き
は天地創造以来働いています。その力を受けた者は、それまでにない働
きができるようになります。これは旧約聖書においても、新約聖書にお
いても同様と言えます。

Iコリントの信徒への手紙 12章3節では、聖霊の働きによって、
だれも「イエスは神から見捨てられよ」(原意は呪われよ)とは言わない。
また、聖霊によらなければ、だれも「イエスは主=神である」とは言え
ないのです。キリスト教の信仰生活に入る時、洗礼を受けます。その時、
イエスはキリスト=救い主、メシアであると告白します。その時、聖霊
が働かれ、新しい人が誕生します。聖霊の働きは私たちに力を与え強め
ます。そして、神の御心に沿った生き方を示して下さいます。わたした
ちは、聖霊の神によってバランスの取れた信仰を得ることが出来ます。

牧師 永松 清

2021 ペンテコステに感謝!

5月23日(日)はペンテコステ(聖霊降臨日)記念礼拝でした。コロナ禍の中、礼拝出席者も10人足らずの状況でしたが、永松師より「聖霊が降る」(使徒言行録2:1-13)と題したメッセージの後、聖餐の恵みに預かりました。試練の状況の中での聖霊降臨日でしたが、インターネット礼拝を視聴頂いた兄弟方からも感謝のコメントが寄せられました。来年こそは主の恵みに感謝できる日にと祈ります。(K/Y)



(当日の聖餐用の乾パンとブドウ汁)

(青木師とK兄が配餐して下さいました)



証し K.Y.兄



一昨年より大流行となった新型コロナウイルスの猛威は、これまでの私たちの生活を一変させました。行動・交流・集会に制限が必要となり、まさしくこれまでの常識を変換する必要がありました。教会生活においてもこれまでの日曜日の聖日礼拝を行うことが困難となり、インターネットを活用したリモート礼拝という方式での礼拝が昨年よりこの岡山教会でも続けられています。

ひさびさに新年度初日のイースター礼拝より通常礼拝になりましたが、先日4月25日の礼拝より再びネット配信礼拝となっていますが、それまでもインターネット環境がない方や視聴が困難な兄弟姉妹方は毎週の礼拝に参加されていますが、ネット配信礼拝中はほぼ10人前後という出席人数となっています。通常礼拝やCSの再開も先が見えない状況です。

私は礼拝配信のご奉仕をさせていただいているため、昨年度からは数少ない皆勤出席者でした。教会に集えない皆さんの悔しさと無念さを感じつつ、毎週のご奉仕をさせて頂いています。礼拝に参加できる幸せを噛み締めつつ、また皆さんの残念の思いを受け止めて、毎週感謝の祈りを込めつつ、配信等の奉仕ができる幸せを味わっています。

こんな状況でも毎週日曜の朝、主は聖なる時間を与えてくださっています。永松先生はこの状況にあっても休むことなく、まさしく“魂を込めて”御言葉のときあかしと神さまからの恵みを私たちに伝えてくださっています。

そればかりか毎日《日々の糧》としてメールで神さまからの御言葉と恵みを説いて下さる日々です。

たとえ会堂に集えなくても心はその場であって一つ。それぞれの居場所で日々聖書の学びを深められる機会が与えられている方も多いのではないのでしょうか。主の教えに従う伝道の奉仕には今の状況は厳しくても、きっと乗り越えられない試練を与えられない神様。会堂に多くの方と共に集い、さんびの響きに満たされるその日まで主の御教え通りに歩みたいと思います。



「母の日」によせて



5月9日は母の日でした。それに因んだ手記をお二人から頂きました。ご紹介します。

「数年前の母の日に、子供達と夫がお金を出し合い、カード入れをプレゼントしてくれました。今もパンパンにカードを入れて破れてきていますが、大切に使っています。それ以来、コソコソ3人で出かけては写真立てやケーキなどを買ってきてくれます。今年の母の日は気がついたら、もう終わってました。私の帰宅が遅かったある日、息子と夫が買い物して夕食を2人で作っていました。それが今年の母の日のプレゼントかなあと。たまにこんな日があるとうれしいですね(o^o)家族の愛に感謝!」(A.Y.姉)

「小学校6年生の時に父を失ってから、母が三人の兄弟を育ててくれました。多くの思い出がありますがいつも聖書の言葉をもって導いてくれた母です。大学受験の時に大きな嵐が北海道に上陸し受験先へいけなくなった時も、先ず祈るからねと電話を切り、その後祈ったらこのみことばが与えられたよ!と詩編の聖句をよみ、どんなことが起きても神様の守りと計画の中に直美はいるんだから安心しなさい、と言われました。自分も親になってみると、なかなかできないことだと思い返したものです。飛行機は受験日前日に大幅に遅れて飛び、夜遅く大学のある街に着くことが出来ました。体力的にはくたくたでしたが、神様が共にいてくださる平安がありました。母の祈りの支えを感じた経験です。」(N.D.姉)



母としての、またお母様への思いをつづって頂き感謝です。

2021年“交流会”レポート



去る4月18日(日)礼拝後ただちに5グループに分かれ、「交流会」が活発に行なわれました。

4月4日(日)イースター礼拝を期して「通常礼拝」に移行し、翌々週18日の交流会は、久しぶりに教会員皆さんと「語り合えた!」喜びと満足感がありました。5グループ(リーダーは役員5名)は、集会室、母子室、会計室、和室、応接コーナーに3~4名ずつ分かれて、コロナ禍の中での信仰生活、今後の教会生活、教会への要望など、主の恵みの分かち合いの時となったあつという間の50分間でした。

具体的な内容としては、YouTube礼拝について、牧師先生からの「日ごとの糧」配信について、個人の聖書日課、他の兄弟との交わり、また、コロナ禍での教会の「枝」としての役割は何か、主から示されたことは何か、などについて自由に分かち合いました。各グループからの意見をまとめたものは週報ボックスに配布されています。

今後もこうした交流会を年に3、4回実施してほしいとの要望も含め、今回出された意見を踏まえて交流会をさらに豊かなものにしていきたいです。(交流会の翌週から再びYouTube礼拝になりました。)

